

平成28年度金沢大学学校教育学類附属学校園連携G P  
(附属学校園連携G P) 活動成果報告書

取組名称 (全角20 字以内)	幼児の自然体験教育プログラムの開発		
	金沢大学角間の里山ゾーンを活用して		
取組学校等	附属幼稚園		
連携学校・学類	学校教育	取組期間	平成28年4月～平成32年3月 (4年0ヶ月)
	教職大学院		
	環境保全センター		
ふりがな	にした ゆきえ	所属校園名	金沢大学人間社会学域学校教育学
実施担当責任者	西多 由貴江	及び職名	類附属幼稚園
電話番号	076-226-2171		
e-mailアドレス	nishita@staff.kanazawa-u.ac.jp		

## 1. 取組の活動内容と成果

※取組の具体的な実施内容と成果について、当初設定した目的・趣旨・期待される教育効果に照らし、  
1ページ程度で分かりやすく記述してください。必要に応じ、図表等を用いても構いません。

※成果物等がある場合は、この報告書とあわせて提出してください。

平成28年度は、幼児教育における里山自然体験活動の意義を明確にしながら、自然体験を組み入れた教育プログラムを開発することを目的に、里山での自然体験活動を積み重ね、幼児教育における里山自然体験活動の意義を明らかにしてきた。

(1) 金沢大学学校教育学類附属幼稚園の里山自然体験活動の蓄積（詳細記録は別紙あり）

① 4月20日 『里山散策』

幼児のねらい：里山に親しみをもつ

里山インストラクターの方との出会いを喜ぶ

参加者：幼児50名、幼稚園教員4名、インストラクター2名、里山メイト1名、大学教授1名、  
金沢大学学生10名、

② 6月1日 『田んぼで泥遊び および 田植え』

幼児のねらい：泥の感触を楽しみながら、田植えを楽しむ

草花や虫などを見つけたりそれに触れたりしながら、里山の自然と関わり楽しむ

参加者：幼児50名、幼稚園教員4名、里山メイト3名、大学教授1名、金沢大学学生10名

③ 6月13日 『初夏の自然と触れ合う』

幼児のねらい：初夏の自然に触れて楽しむ

森、田などの変化を感じる

参加者：幼児 45 名、幼稚園教員 4 名、インストラクター 3 名、里山メイト 1 名、金沢大学学生 2 名

④ 7 月 13 日 『虫送り 自然と触れ合う』

幼児のねらい：里山の自然との関わりを楽しんだり変化を感じたりする

田んぼの変化（様子）を感じる

虫送りの行事を知り、やってみる

参加者：幼児 48 名、幼稚園教員 4 名、インストラクター 3 名、里山メイト 4 名、金沢大学学生 10 名、（留学生約 10 名見学）

⑤ 10 月 12 日 『脱穀 秋の自然と触れ合う』

幼児のねらい：里山の秋の自然とのかかわりを楽しんだり変化を感じたりする

昔ながらの方法で脱穀を体験する（千歯こき・とうみ）

参加者：幼児 48 名、幼稚園教員 4 名、里山メイト 4 名

⑥ 10 月 18 日 『秋の自然とのふれあい』

幼児のねらい：秋の自然とのかかわりを楽しんだり変化を感じたり

木の実、種などに興味をもち、見つけたり触ったりする

参加者：幼児 49 名、幼稚園教員 4 名、インストラクター 3 名、大学教授 1 名、金沢大学学生 7 名

⑦ 1 月 24 日 『冬の自然とのふれあい おこわづくり』

幼児のねらい：冬の雪山を散策する

米の収穫を喜び、里山で味わう

里山でお世話になった人を思い出し、里山活動を振り返る

参加者：幼児 48 名、幼稚園教員 4 名、インストラクター 3 名、里山メイト 1 名、金沢大学学生 5 名

(2) 幼児教育における里山自然体験活動の意義の解明

活動毎に幼児の姿を記録し、幼児にとっての活動の意義を考察してきた。その中で、幼児の自らかかわろうとする姿、かかわりを楽しむ姿、かかわり方を工夫する姿を見ることができた。中でも、自分で選び、やりきる達成感、自らチャレンジする気持ち、米作り体験を通して、収穫の喜び、お世話してくれた方への感謝の気持ちをなど、年間を通してかかわるからこそ、幼児の学びにつながっていることが明らかとなった。

## 2. 平成 28 年度の実施計画に対する達成度の自己評価

評価（いずれかに○）	評価の理由
a. 達成できた <input checked="" type="radio"/> b. おおむね達成できた c. あまり達成できなかった d. ほとんど達成できなかった	いしかわ自然学校インストラクターの木谷一人氏、里山メイト柳沢氏と連携しながら、活動計画を作成し、一年を通して里山自然体験活動を実施し、活動実践をさらに蓄積することができた。また、参加職員、インストラクター、里山メイト等と活動内容を共有しながら、里山自然体験の計画フォーマット、記録フォーマットを作成することができた。

### 3. 今後の目標・展望

※今年度の実績を踏まえ、今後の目標・展望を500字程度で記述してください。

平成 28 年度は、これまでの活動計画、活動記録をもとに活動内容を検討し、幼児の里山自然体験活動を実施してきた。その中で、参加する幼稚園教員、インストラクター、農業従事者（里山メイト）で、事前に活動内容、活動のねらいは共有されてきたが、それぞれの立場でかかわり方が異なっていることが明らかとなった。

そこで、平成 29 年度は活動内容だけではなく、インストラクター、農業従事者（里山メイト）、幼稚園教員の 3 者専門性を活かした役割を明確にし、活動を進めていくことが大切であるとする。そのためにも、平成 28（2016）年度と同様に、金沢大学学校教育学類附属幼稚園年長児を対象とする里山自然活動を計画及び実施し、自然体験教育プログラムに反映させていく。